

工学資源学部男子寮「北光寮」

秋田市手形字西谷地5番地

今回は、手形キャンパスから徒歩10分の距離にある工学資源学部男子寮「北光寮」の紹介です。この建物は、昭和40年に建てられた鉄筋コンクリート4階建、2棟作り。今年で築44年目を迎えます。現在、北棟は老朽化が著しいために閉鎖されており、入居できる学生定員は108名までとなっています。

この北光寮には、さまざまな伝統が受け継がれています。入寮生は必ず上級生との二人部屋で暮らさなくてはならず、北光寮の独自の挨拶や寮歌などを短期間でマスターするために、先輩の厳しい(?)指導を受けます。また、全員が出身高校の制服で出席する会をはじめ、寮にはさまざまな催しがあります。このような上下関係や寮生同士の交流は、アパート暮らしではなかなか得られるものではありません。入寮生にとっては厳しいものであると同時に、学ぶことも多いのです。

この北光寮の東側グラウンドには、一部留学生も含む130名ほどの男子学生が入居できる寮の新設が、平成22年度までに予定されており、4月から工事が始まります。



平成21年 4月~6月 秋田大学の行事案内

5月 10日(日) 公開講座—学習方法と歌唱表現—
「高校生・社会人のための音楽講座(前期)」(計7回)
●会場:秋田大学教育文化学部2号館140教室

30日(土) **第44回今日歩大会(寒風山~秋田大学)**

6月 1日(日) **秋田大学創立記念日**

4日(木) 公開講座—18世紀英国の絵画と社会—
「ウィリアム・ホガースの絵画を読む」(計5回)
●会場:カレッジプラザ

6日(土) 公開講座—近代化と国際化の狭間で—
「近現代の日本音楽」(計6回)
●会場:秋田大学教育文化学部3号館254教室

13日(土) **平成21年度東北地区大学体育大会(水泳)**
14日(日) ●会場:秋田県立総合プール

26日(金) **平成21年度東北地区大学体育大会(ラグビー)**
●会場:八橋球技場、八橋陸上競技場

編集後記

アプリーレ第27号は、昨年9月の本学とわらび座との連携協定を契機に、このことの意味についてわらび座の押久保さんと教育文化学部の附属学校園長の皆さんに語っていただくことを特集に組みました。本学は地域に根ざし地域に支持される高等教育機関であることを謳っておりますが、民間の芸術団体と連携するのは初の試みです。5氏の対談からその熱い思いを汲み取っていただければ幸いです。

(企画調整・広報担当理事 対馬達雄)

アプリーレの由来「アプリーレ」とは、イタリア語で「開く、開ける」という意味の動詞です。「積極的に秋田大学の窓を開放すること」を意識して名付けられました。バックナンバーは本学ホームページに掲載しております。

秋田大学へのご意見・ご要望は、E-mailまたは秋田大学ホームページの「お問い合わせ」からお寄せいただくことができます。また、本誌についてはホームページ上でもご覧いただけます。(URL <http://www.akita-u.ac.jp/honbu/06info/0606.html>)

Aprile

2009.4
No.27

contents

- 特集1**
特別座談会
秋田大学附属学校園 & わらび座
「相互に学び合い、一緒に作る。それでこそ協定」
- 工学資源学部で理科免許取得が可能に!**
工学資源学部教育学生委員長
材料工学科
教授 田口正美
- 特集2**
平成18年度
特色GPゲーミング・シミュレーション型授業の構築
—社会的実践力を培う体験的学習プロジェクト—
- 秋大NEWS**
●「秋大生による秋大再発見!!」
学生新聞別冊「kulo」創刊
●秋田大学卒業式
●病院内にスターバックスがオープン
●2009 高麗大学・秋田大学国際シンポジウム
「自殺予防における日韓の連携の可能性」
- 授業紹介**
医学部保健学科母子看護学講座 教授 藤原ひとみ
医学部保健学科看護学専攻 専門科目
「母性看護方法論II」
- ようこそ留学生**
工学資源学部
バドミントン・ドッジボールサークル
秋田鉱山専門学校まもなく創立100周年!!
- 研究室だより**
工学資源学部環境応用化学科
教授 菊地貴一、講師 高橋博、技術専門職員 佐藤常保
「秋田大学は地域のニーズにも耳を傾けます」



特別
座談会

相互に学びあい、一緒に作る。 それでこそ協定

秋田大学とわらび座が協定を結んだのは、昨年の9月。わらび座は秋田に拠点を持つ全国に名を知られた芸術団体で、同じく地域に根ざす大学を目指す秋田大学と、多面的に密接に連携しようと意気投合した。

秋田大学と、芸術団体であるわらび座が、どのようなことを一緒にしていきたいのか。教育文化学部附属学校園の校長4氏とわらび座の広報宣伝室長が語り合った。

ゲストティーチャーとしての関わり

押久保 陽子(わらび座広報宣伝室長) 昨年9月に協定を締結し、11月には皆様でわらび座を視察してくださいと聞いております。芸術団体であるわらび座が秋田大学、それから附属学校の皆様と一緒に協力して何かができるのか。忌憚なく皆様のご意見をお聞かせいただければと思います。



阿部 昇(附属小学校長) わらび座のワークショップの活動はもちろん知っているのですが、通常の授業に、わらび座の方がゲストティーチャーとして迎えられたことはあるのですか？

押久保 正式な授業の一環として組み込まれたものは近年ではありませんが、県出身の俳優が母校の小・中学校の講演会やワークショップに呼ばれるようなことは、たびたびあります。

阿部 ゲストティーチャーとして授業の中のある部分だけ担っていただいて、教師と一緒に授業を作っていくというコラボレーションの仕方ですね。これを機に、わらび座の学校教育への新しい関わりが構築できれば、われわれも受け入れやすいわけです。ゲストティーチャーとして通常の授業に来ていただければ、何よりも授業が活性化していくのではないかと思います。

押久保 そういったプログラムをつくっていけるように、私も学ばせていただきたいと思います。これはわらび座の事例ではないのですが、医者を目指している大学生たちに、演劇人がコミュニケーション学の授業を実際に受け持っているという話をしています。現在は単位も取れるそうですよ。

阿部 たしかに、医者のコミュニケーション能力は重要ですね。秋田大学の医学部でもそういったプログラムを始めていたような気がします。わらび座さんがこれまで培ってきたものを、医学のコミュニケーション能力という分野でさらに生かすという面白いと思います。協定は、教育文化学部のみと締結したわけではなく、大学としての締結ですから。工学はすでにモーションキャプチャーの研究でつながりがありますし、教育とはこれから深い関係を築けると思います。今後は、医学部ともぜひ。

大城 英名(附属特別支援学校長)

学校には年間の教育計画がありますから、わらび座と連携できる活動は何かを検討する必要があります。まずは、わらび座のワークショップに参加することから始められないかと考えています。学校での授業においても、劇や表現活動の授業などは、わらび座の皆さんからの専門的なアドバイスをいただきながら、一緒に授業づくりをできる部分があればと考えています。それは頻繁でなくてよいと思います。何か一つ授業を題材にして、意見交換から始めていけば、何かが見えてくるのではないかと思います。



似ている! 演劇の世界と教師の世界



笠原 幸生(附属中学校長) 私は、教員を目指す学生のために、「教員採用必勝塾」というものを立ち上げて、集団面接、模擬授業、自主ゼミとして、学生や先生方にも協力してもらってボランティアという形でやってきました。教師にとって一番大事なのは、演劇要素と言いますか、教壇に立った瞬間から演じるという意識です。自信をもって生徒たちに向かい合うという意識から教えないといけないのではと強く感じています。もちろん、試験に受かって、いい教師になるために、ですから、現在の活動に、わらび座さんが



協力してくれれば、非常に良くなると思います。



四反田(附属幼稚園長) 俳優さんがステージに立つとき、観客は期待感をもって見るわけです。何が起るか。そういうものが欲しい。今の学生にはステージマナーも教えないといけない。ステージにうつむいて出てきたり、チューニングしてからお辞儀をしたり。まずはお辞儀が先ですね。そういう立ち居ふるまいや、ステージに出てきて注目を集めるということを意識させないといけない。それは、わらび座さんがいい影響を与えてくださるのではないかなと思います。

押久保 それはまさに、われわれの俳優養成所のところで、みっちりやります。歌を歌います、セリフを言います、というその前段階が重要なのです。人前に一步登場するのがどういことなのか、お客様1000人の目をこちらに向かわせるとはどのようなことなのか。まずは、そこから始まります。

阿部 35人の前で授業をするということも、それとよく似ています。最初にどういった表情で教室に入っていくのかとか、あいさつからどうやって授業に切りこんでいくのかとか、発問する際はどこに視線を置くのかとか。実際に学生が教育実習に行くと、視線を子供たちに合わせられない、アイコンタクトができない、子どもたちを見ないで宙を見ている、視線が流れている、ということがよくあります。ですから学生に模擬授業をやらせて、視線の置き方や、板書の説明の仕方などを細かく教えます。そうやってみると、やはり教師の授業も演劇的要素が強いんですね。もちろん教科独自の論理もありますが、それに加えて演劇力という面でわら

び座さんに力を貸していただけると、大学の教員養成プログラムはかなりグレードアップするはず。全国を見ても、教員養成大学でそのような取り組みを実施しているところはないのではないですか。そういった意味で、わらび座さんとは新しいものを作っていけると思います。

俳優養成と教育実習の共通点

大城 教育実習前の学生が、大学の授業で、子どもたちを惹きつける表情や声の出し方、あるいは動きや姿勢などを学ぶ機会があればいいと思います。子どもたちを惹きつけるためには、それなりの演技や技術があつてしかるべきだと思います。大学のカリキュラムにも、俳優養成のノウハウの基礎的なものを学べる授業が必要かもしれませんね。もちろん教員になってからも、それを学べればよいと思います。

押久保 一対一で話しているだけではなく、周りにたくさんの方がいるところで、自分が言いたいこと、思っていることを相手にちゃんと伝え、キャッチボールができるかどうか。言ってみれば、それは俳優の根本で、それができなければ俳優としてそもそも舞台上に立てません。ですから、そういったことの指導は、わらび座として十分に協力できると思います。世間的にもわらび座はアンサンブルとかチーム力とか、舞台上のコミュニケーションという点で高い評価を受けています。俳優自身が目立ちたいから舞台上に立つというよりも、「アンサンブル力、チーム力といったものを舞台から感じる」と、首都圏の演劇評論家の方からはつきりと言っています。これは、われわれが民俗芸能をやってきたからではないかと思っています。息をそろえるとき、力を合わせる時とか、当たり前ですが共同の精神として芸能の中に培われているので、それをベースにしている劇団だからこそ、結果的に表現として外に出てくるし、俳

優養成の段階でもそこを大事に教育しているわけです。

大城 特別支援学校の子どもたちは、言葉でのコミュニケーションが必ずしも得手ではありません。でも、この人は自分のことを好きかどうかはすぐにわかるのです。どうしてわかるのか不思議に思うこともありますが、顔の表情や声の出し方、接し方など、その人の全体の雰囲気を感じるのですね。学生が子どもたちに気持ちを伝えるには、何をどのように具体的に伝えるかを学ぶ必要があるかもしれませんね。

阿部 気持ちはあるのだけれど伝えられない学生と、うまく伝えられる学生がいるのですね。小学校、中学校、特別支援学校、幼稚園それぞれに、方法論というか、伝え方があるのではないかと感じます。そこをところをせひ手伝っていたければ、大きくプラスになると思います。

教員免許更新制のプログラムに芸術教育を!

押久保 わらび座の小島営業部長から、教員免許の更新制度の中に、芸術教育をプログラムに入れ込むことができないかという提案があったと思います。実際にアメリカでは、演劇団体の主催するワークショップが教員免許更新の単位として認められているものもあるのです。制度として、演劇は表現教育に重要だということが社会的に位置づけられていて、それを積極的に学習することが推奨されているわけです。制度として認められているからこそ、先生方は安心して演劇を学びに来る。そして俳優はそれに応えるためにさらに演技力を高めていく。つまり、相互に表現の力をつけていけるという環境にあるということなのです。

阿部 演劇が基本なのですが、演劇だけでなくいろいろなことをさせるはずですよ。たしか、何か題目を出して、本気でディベートさせる。そのディベートにもノウハウがある。それだけでも教員にとって魅力的なプログラムだと思います。大学の教員にもパフォーマンス力は重要ですから。大学の教員もそういったものを学ばなくてはならない。わらび座さんには、もちろん免許更新制という特別な時期だけでなく、通常の授業にゲストティーチャーとして来ていただければ、なお嬉しい。いろいろと新しいことができそうです。

押久保 いろいろな可能性はあると思います。豊かに表現するということは、教員の方にとっても授業をすすめるうえで重要なことだと思いますし、思春期にいろいろな葛藤を抱えている生徒は、先生には魅力的なオーラを発している欲しいと思っているはずですよ。

阿部 それが高い。やはり教えていただかないと。それに人間である以上、学級を持って35人相手となると、どうしても相性が合わない学生もいるわけです。合わないから

仕方がない、というのではプロじゃない。そういうことも切り結んでいくためには、教師は実はいろいろな方法論を持っています。どうやって距離を近づけていくかというノウハウですね。それを、より意識的に惹きつけられるような技が、もっとあるのではないかと思います。それは表面的にということではなく、人間と人間の関係をうまく切り結んでいくためのノウハウですね。演劇という切り口をもっていらっしゃる皆さんに、ぜひ教えていただきたい部分です。

押久保 今でも、演劇を学びたいという先生方からの声もたくさんあります。しかし、希望される先生の私費で購っていることも多いようですし、そもそも教員免許更新制の単位として認められていません。制度として認められていれば、先生方も学びやすくなると思います。ぜひとも、秋田大学の先生方に芸術教育の重要性を社会にPRして欲しいと思います。

阿部 わらび座に何かをしてもらうという点だけでなく、われわれ教育文化学部としても授業論をはじめ、いくつかアドバイスができると考えています。協定ですから、どちらかが一方的に便宜をというのではなく、お互いに学び合い、高めあって、さらに新しいものを一緒に作っていくという方向性を導き出していくことができれば、本当の意味での連携協定と言えるのではないかと思います。



秋田大学で行われた協定調印式の様子(平成20年9月11日)
(吉村学長◎と小島代表取締役◎)



工学資源学部で
理科免許取得が可能に!

工学資源学部 教育学生委員長
材料工学科教授 田口正美

工学資源学部教員免許状の取得にかかる新旧対照表		免許状の種類(教科) ※下線部は変更点	
		平成20年度	平成21年度
学 科 名	地球資源学科	高等学校教諭一種免許状(工業)	<u>高等学校教諭一種免許状(理科)</u> <u>高等学校教諭一種免許状(工業)</u>
	環境応用化学科	なし	<u>高等学校教諭一種免許状(理科)</u> <u>高等学校教諭一種免許状(工業)</u>
	生命化学科	なし	<u>高等学校教諭一種免許状(理科)</u>
	材料工学科、情報工学科 機械工学科、電気電子工学科 土木環境工学科	高等学校教諭一種免許状(工業)	<u>高等学校教諭一種免許状(理科)</u> <u>高等学校教諭一種免許状(工業)</u>

8学科すべてで課程認定 *

工学資源学部は昨年末、文部科学省より高等学校教諭一種免許状(理科)の課程認定の答申を受けました。3年に近い年月をかけて準備を進めてまいりましたので、申請した8学科すべてに課程が認められたと聞いたときは大変な喜びでありました。ご協力くださいました方々には深く感謝申し上げます。

秋田大学ではこれまで、教育文化学部を中心として、幅広い視野に立つて子どもの心性を理解し、自己発見を促すことができる高度な資質能力を持った人材を育成し、秋田県における教員養成の基幹部分を担ってきました。文部科学省が公表した「全国学力・学習状況調査」で秋田県の子どもの学力が全国トップレベルにあることは、ニュースとしても大々的に取り上げられました。この朗報は、教育文化学部が秋田県教育界において長年果たしてきた貢献の成果であり、心より敬意を表したいと思います。

「理科離れ」の解消にはずみ *

一方、工学資源学部では、資源・環境・エネルギーなどの問題に対応して国際的に活躍できる技術者や、新たな産業の創成に寄与する研究者の育成を主たる教育目標としてきました。

しかし、グローバルスタンダードが大きく変容する状況下において、わが国が科学技術立国として存在するために、理工系学部が積極的に教員養成に関与すべきであるとの意見が、産業界のみならず学界等でも高まっていることも事実です。すなわち、中学校や高等学校における「理科離れ」現象は、大学の理工系学科への進学者の減少となって現れており、わが国における国際競争力の低下につながるとの憂慮がさまざまな分野で表明されています。

したがって、教育現場において「子どもたちが憧れをいただく技術者や研究者のロールモデル」を具体的に提示できる教員を養成することが、理工系学部を設置される教職課程に課せられた使命の一つになります。

新カリキュラムが今年度スタート *

平成21年4月には、工学資源学部における教職課程が船出します。ここで、高等学校教諭一種免許状(理科)を得ようとする学生には、第一に所属する学科での卒業要件を満たすことが求められます。そして、「教師論」等の基礎科目から始まり「高等学校教育実習」に至るまで、さらに20科目に近い「教職科目」の単位を修得しなければなりません。ですから、工学資源学部において高等学校教諭一種免許状(理科)を得ようとする学生は、勉学に対して相当の覚悟をもって臨む必要がある、と言えるでしょう。

工学資源学部では、新たに設置された「教職課程運営委員会」のもと、理工系学部における教員養成のあり方、教職課程カリキュラムの編成・運営・評価はもとより、高等学校教育実習の条件整備、教員採用選考試験対策の支援に至るまで、充分に協議して実施することとしています。

たとえば、高等学校教育実習についても、秋田工業高等学校など県内3高等学校の協力・支援を得て、円滑に進めることができる状態にあります。何年後に「高等学校の理科教諭として活躍する」ことを思い描く学生諸君の「粘り強い挑戦!」を期待しています。

最後に、この教職課程が無事に船出し、工学資源学部のみならず秋田大学における教育上の大きな特色に発展できるよう、関係各位のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。

ゲーミング・シミュレーション型授業の構築

平成18年度
特色GP

—社会的実践力を培う体験的学習プロジェクト—

実施期間：平成18年度採択～平成20年度

「ゲーミング・シミュレーション型授業の構築—社会的実践力を培う体験的学習プロジェクト—」(18特色GP)は、平成18年度に文部科学省より特色ある取り組みとして採択されました。教室や学内で実践可能な体験的学習を授業に導入し、知識と行為の統合的な学習を達成しようとするプロジェクトです。従来、大学の講義は、教師が多数の学生を相手に一方的に教える知識伝達型が一般的でしたが、知ったことをもとに実践すること、行為や実践を通じて理解すること、すなわち知識と行為の表裏一体的な学習を授業に取り入れることにより、学生同士が体験を共有化する話し合いや、問題の解決に向けた議論を通して相互の学び合いが成立します。

本プロジェクトは、学びのスタイルやその内容、教師と学生や学生同士の関係を変革することにより、知識と行為の統合的な学習を達成し、社会をより良く変革する力、すなわち学生に社会的実践力を培うことを目指しています。

今回は、20年度に実施された「法曹三者と学生による裁判員制度の模擬裁判」と「デジタルゲームを教室へ「遊び」と「学び」のハーモニー」の2つの取り組みを紹介します。



公判場面



評議場面

①「法曹三者と学生による裁判員制度の模擬裁判」

昨年12月、本学において裁判員制度の模擬裁判が行われました。教員志望の学生が公民の授業で裁判員制度を教える日に備える教職教育と、市民に裁判員制度を理解してもらうことを目的としており、2006年に続き2回目の実施となります。教育文化学部の学生が裁判員や被告役等を演じ、裁判官・検察官・弁護士はいずれも実際に活躍している本職の方が参加するという本物さながらの裁判です。

事件は、野球部の友人と口論となり果物ナイフで相手を刺して怪我を負わせた大学生の被告が、殺人未遂で起訴されたという想定で、シナリオは法曹三者の協力を得て学生が作成しました。シナリオが用意されなかった評議では、裁判の焦点となった被告の殺意の有無について学生からさまざまな意見が出され、白熱した議論が交わされました。終了後、模擬裁判に参加・傍聴した学生からは、人を裁く難しさや重みについての感想が述べられ、今回の模擬裁判が、5月から始まる裁判員制度について深く考える機会となったことを印象づけました。

なお、当日の模擬裁判は大学関係者をはじめ一般の方にも公開され、リアルタイムでインターネットにも配信されました。

インターネット配信の様子



裁判員制度とは

裁判員制度は、国民の中から選ばれた6人の裁判員が刑事裁判に参加し、3人の裁判官とともに、被告人が有罪かどうか、有罪の場合、どのような刑にするのかを決める制度です。国民が刑事裁判に参加することにより、裁判の内容や手続きに国民の良識が反映されるとともに、司法に対する国民の理解が深まり、その信頼が高まることが期待されています。

(最高裁判所「裁判員制度ナビゲーション」)より

②「デジタルゲームを教室へ「遊び」と「学び」のハーモニー」

これまでデジタルゲームは、家庭や学校で悪者扱いされる場合が多かったと思います。しかし昨今のデジタルゲームは、遊び心を持ちながらも、任天堂のWiiやDSを中心とした健康・知育ゲームなど、いわゆるシリアスゲームが増えています。このような中で、デジタルゲームの利点を活かして、もっと教育や学習に活用できるのではないかと考えました。そこで、秋田大学は平成20年12月21日、本学に第一線のゲーム製作者やゲーム研究者を招き、「デジタルゲームを教室へ「遊び」と「学び」のハーモニー」と題したイベントを開催しました。

第1部の体験セッションでは、約50種類のデジタルゲームとボードゲーム(アナログゲーム)を用意し、参加者が実際にゲームをプレーして効果を検証。続く第2部では、ゲームを教育に活用する可能性について、体験セッションで用意されたタイトルゲームを題材に、学生や教員が自分のレビューを展示するというポスターセッションが行われました。続く第3部のシンポジウムでは、秋田大学、(株)スクウェア・エニックス、株式会社SGラボ、横浜国立大学から、ゲームを製作・研究する有識者が登壇し、それぞれの立場から、シリアスゲームの可能性について意見を述べました。



体感系ゲーム会場



ボード系ゲーム会場



地滑りをシミュレーションする学生



ポスターセッション



シンポジウム

プロジェクトの成果の継承と発展

18特色GPのプロジェクトは、平成20年度をもって計画が終了しました。しかしゲーミング・シミュレーション型授業の構築のため、私たちは21年度以降も本プロジェクトの成果を発展させ継承するための教育活動を展開していきます。

特色ある大学教育支援プログラム(平成18年度特色GP)

「ゲーミング・シミュレーション型授業の構築—社会的実践力を培う体験的学習プロジェクト—」

<http://bonden.is.akita-u.ac.jp/index.html>



秋大NEWS

「秋大生による秋田再発見!」 学生新聞別冊『kulo』創刊



昨年7月から本学の学生新聞『The Akita University Post』を発行しているAUP(秋田大学報道局)が、このほど雑誌『kulo』を創刊しました。

タイトルはコーヒーの黒色に由来し、know(知る)、understand(理解する)、look(発見する)、occur(起きる)の頭文字をとり、「秋田大学生が地域の魅力を再発見し、もっと街に出て欲しい」という願いを込めています。

人気喫茶店の紹介や、学生や教職員おすすめのコーヒーと本を紹介する「はじまりはカフェ」と、秋田内陸縦貫鉄道、秋田木工など、秋田の隠れた名所を伝える「秋田遺産 残すべき古里の大切なもの」の2大特集で、ミス秋田大をモデルにした写真も掲載されています。報道局6人の学生が3カ月以上かけて県内を取材し、各地の魅力を伝えています。

また、創刊記念として「秋田大美人2008」で準ミスに選ばれた丹羽順子さんがアイデアを出し、黒いカレーライス、黒い蒸しパン、黒いおにぎり、黒いプリンと、雑誌名『kulo』の名にちなみ、徹底的に黒にこだわった商品開発もコンビニと共同で行われ、2週間限定で販売されました。



開発したAUPのkuloカレーとkuloプリンを手取る、準ミス秋大の丹羽さん

平成20年度卒業式

3月22日、平成20年度秋田大学卒業式が秋田県民会館で挙行されました。吉村学長から、各学部の代表者へ学位記を授与。続いて学長から告辞があり、これに対して卒業生・修了生1,236名(学部992名、大学院244名)を代表して医学部卒業生の吉野秀昭さんから答辞がありました。



答辞を読み上げる吉野さん

式終了後は、後輩たちからの祝福、家族や仲間たちとの記念撮影など、学生生活の最後を惜しんでいました。

病院内にスターバックスがオープン



秋田大学附属病院内にコーヒーショップ「スターバックス」がオープンしました。以前より病院を訪れる患者から、待ち時間にくつろげる喫茶店を設置して欲しいと要望が出ており、それに応えた形。患者へのサービス向上をはじめ病院に勤務するスタッフへの職場環境向上につながり、利用者からは好評を得ています。

店舗面積は約35平方メートルで、レジカウンターのほか、20席のテーブルスペースも用意されています。車椅子やお年寄りの方でも商品の受け渡ししやすいように、カウンターを通常のものよりも若干低く設置。また、一般店舗では記載していないカロリーやアレルギー表示をメニューに記載するなど、病院らしい工夫もされています。

2009高麗大学・秋田大学国際シンポジウム 「自殺予防における 日韓の連携の可能性」



平成21年3月2日、秋田市のキャッスルホテルを会場に「自殺予防における日韓の連携の可能性」をテーマとした国際シンポジウムが開催されました。韓国の高麗大学医学部李敏秀教授をお招きし、秋田大学からは本橋豊医学部長、佐々木久長准教授、金子善博准教授が参加しました。自殺予防研究について報告し、今後両大学が協力して研究を推進する可能性と意義について意見交換を行いました。

授業紹介



医学部保健学科看護学専攻 専門科目 母性看護方法論II 「医学部保健学科母子看護学講座」



教授 篠原ひとみ

皆さんは生まれて間もない赤ちゃんとお会いしたことがありますか。この時期の赤ちゃんは周囲がほんやり見えています。聴覚は胎児の時から機能しています。また匂いや味もわかります。生まれて間もない赤ちゃんにも個性があり、この時から一人の人間として尊重され、育てられる権利をもっています。看護する者は、常にこのことをふまえて赤ちゃんに接する必要があります。

初めて母親や父親になった人は、首が座らず、さわるとなにかの拍子にこわれてしまいそうな赤ちゃんにどうやっておっぱいをあげたらよいのか、おむつはどのように換えるのか、お風呂はどうするのかなど、わからないことがたくさんあります。そのような両親に対して助産師や看護師は方法を説明し、一緒に行い、退院までにひと通りできるように援助します。これは母性看護の一つです。母性看護の目的は母親、父親になることを援助することです。この援助を行うには、援助する側がそのことについての知識と技術を持っていく必要があります。

母性看護の「母性」という言葉はとてもあいまいです。WHO(世界保健機関)では「母性とは、現に子どもを産み育てているもののほかに、将来子どもを産み育てるべき存在、および過去においてその役目を果たしたもの」と定義しています。つまりどの年代の女性にも存在する概念で、母性看護の対象は思春期から更年期、老年期までの女性とその家族です。

母性看護は、すべての子どもが健やかに生まれ、かつ育てられるように女性自らが健康の保持、増進に努めることができるように援助することです。

母性看護方法論I、母性看護方法論IIでは、妊娠、分娩、産褥(分娩後6~8週間)期の看護と新生児(生まれて4週間までの赤ちゃん)の看護を学びますが、特に母性看護方法論IIでは看護に必要な技術について演習します。この演習は母性看護学分野の教員4人が分担して行っています。

妊娠期では、「腹囲や子宮底長の測定」、「レオボルド診断法(お腹を触って胎児の頭や背中、臀部がどこにあるのかを診断する方法)」や「分娩監視装置の装着とその判定」を学びます。分娩期では、妊婦ジャケットをつけて妊婦擬似体験をします。寝たり座ったり、階段の上り下りをするなどでどのような動作が不自由なのか体験します。また、分娩時の陣痛緩和法として、2人1組となり看護師役が産婦役の呼吸に合わせて腰の圧迫やマッサージを行う援助方法を学びます。

産褥期では子宮復古(妊娠で大きくなった子宮がもとに戻ること)の観察や母乳育児に向けた乳房ケアの方法、そして新生児の身体計測や全身の観察方法、沐浴方法を学びます。実物大の新生児人形(約3kg)を支えて安全に入浴させることは難しいことですが、学生は将来、母親や父親になった時のことを想像して、本物の赤ちゃんに接するように声をかけながら熱心に行っています。





ようこそ!留学生

今回は、工学資源学研究所博士前期課程電気電子工学専攻1年次生のハトムク・ドウジーパウワーさん(モンゴル出身)の登場です。



ハトムク・ドウジーパウワーさん

Q. 日本に留学することになったきっかけは?

モンゴル国立大学で物理を専攻していましたが、そのとき指導してくれた先生が日本で博士課程まで修めた方で、日本についている教えてくれました。また大学の友だちが秋田大学に留学したので、彼からも日本についての情報が入り、日本に興味をもつようになりました。

Q. 留学先に秋田大学を選んだのは?

友だちがすでに留学していたので、迷わず決めました。最初に研究生として半年間過ごし、今年の4月から大学院生となりました。秋田大学に入学する前は仙台の日本語学校で1年間学びました。

Q. 実際に秋田に住んでみた印象は?

仙台の日本語学校に入学する前に、まずその彼のところに泊まりました。2006年の秋です。そのときが初めての秋田滞在です。仙台からのバスの車窓から見えた稲刈り風景は大変珍しかったです。モンゴルは小麦を主食としているので見かけることがないからです。また、緑が多いことにも感動しました。日本は高層ビルが多い賑やかなところで、緑があまりないと思っていましたから。

Q. 秋田大学ではどんなことを学んでいますか?

「水トリー3次元等価回路シミュレーション」というテーマで研究しています。Cシャープ2008を使ってモデルを作成し、データを解析しています。

Q. これからの抱負は?

大学院を修了したら秋田で就職したいと考えています。そのために、「アジア留学生キャリアパスプロジェクト」で勉強しています。

インタビュー/工学資源学部 広報委員 坪井ひろみ

秋田鉦山 専門学校

まもなく創立100周年

17

名誉教授、学芸員(鉱業博物館前館長)
北光会元事務局長

丸山 孝彦

千秋城下町にある留学生会館分館(旧学術交流会館)玄関脇のショーケースに、銅製銘板「学生集會所」や、「北光会館」の写真数枚が飾ってあります。今回はこの学生集會所と北光会館の来歴を紹介します。



「学生集會所」の銘板

学生集會所は北光会館の前の名前で、入口の壁にはめ込まれていた銘板には簡単な建設経緯が記されています(写真上)。1917(大正6)年採鉱学科卒業の故・佐藤謙三氏が1937(昭和12)年に鉦山へ寄附したもので、白壁の洋風建築は市民の注目の的でした。最初は現在の工学資源学部二号館付近にありましたが、学科棟新築工事に伴い現在のR17

ンター付近へ移転しました。

集會所入口を入ると、右側に学生食堂、左側手前に小部屋、奥へ向かって教官食堂、談話室、浴室・便所、調理室、二階には51畳の大広間、廊下を隔てて8畳の和室3部屋がありました。

戦前、二階の部屋は大小の学生集會場、教官・学生のコンパ会場、卒業生の宿泊施設などに利用されました。終戦前後は、大広間や和室は受験生の宿泊所にも使用され、住宅事情が悪かった終戦後は教官宿舎に転用され、数年間住み着いた教官もいたようです。教官の葬儀会場に使用したこともあります。

学内施設や教職員用宿舎が整ってから、学生や教職員は食堂を利用し、二階の大広間で将棋や囲碁などを楽しみ、夜は学科やサークルのコンパ会場に使用しました。とくに県外出身の学生たちにとっては、生活に密着した場所でした。また、入口左手の小部屋は、鉦山学部新聞部が使用したこともあります。

食堂施設を備えた学生会館が完成した後、1971(昭和46)年に大学が集會所の外装・内装工事を行い、北光会館(写真右)と改名。学

生主体の施設から大学の厚生施設となり、来客の宿舎、教職員の各種会場などに利用されました。宿泊者が、朝食の郷土料理とボリューム、それに宿泊代の安さ(一泊朝食付き1,030円)に驚いていたことを思い出します。多くの方々が愛惜の念を抱いた学生集會所・北光会館は1986(昭和61)年に解体され、その機能は新設の学術交流会館に移りました。留学生会館分館となった現在も、玄関脇に保存してある銘板や写真は、「母校愛に燃えた先輩の遺志を後世に残そう」との意思を反映しています。

(以下次号に続く)

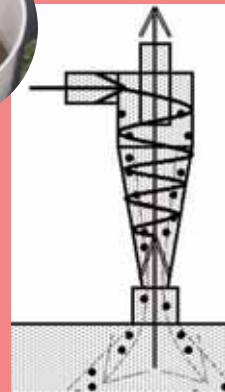


解体前の北光会館
(千田恵吾学芸員・技術専門職員複写)

研究室だより 工学資源学部

環境応用化学科
教授 菊地 賢一、講師 高橋 博

技術専門職員 佐藤 幸保



秋田大学は地域のニーズにも耳を傾けます

液体サイクロンを用いた灯油ホームタンク洗浄装置、開発と製品化までの道のり

それは一通の手紙からはじまった...

梅雨の時期のある日、秋田県内の灯油販売業者さんから一通の相談が秋田大学に寄せられました。内容は、「灯油のホームタンクを洗浄する装置を開発して、洗浄サービスを低価格で秋田県民に提供したいのですが、大学の先生のお力をお貸しねがえませんか...」と。

灯油のホームタンクを洗浄する??

灯油は、原油を蒸留して得られる無色・透明のさらさらした液体ですが、なぜ灯油を入れるタンクを洗浄しなければならないのでしょうか?

一般の家庭用灯油ホームタンクには、灯油が流れると同時に空気をタンク内に取り込むための配管が装備されていますが、梅雨の時期には、灯油を消費すると同時にタンク内にホコリや水分を含む空気が侵入してしまいます。実はこの湿り気を含む空気が「ホームタンク内を汚す原因物質のひとつ」なのです。

たとえば、日中の暖かなうちにタンク内に侵入した空気は、夜、気温が低下するとタンク内で結露し水滴を生成しますが、水は灯油よりも比重が大きいのでタンクの底に沈み、放置すると長い時間をかけてタンクの中にサビ等を発生させるほか、冬には水が凍結し、灯油が流れなくなる事故なども誘発します。そのため、タンク内の水、サビ、ゴミなどは時々除去する必要があります。

“定説を学び、覆そう!?”

秋田大学客員教授・直木晋作 西木正明氏 談

今回の開発にあたり“小型”“扱いが簡単”“安く作れる”ことを目標として、サイクロンの技術を利用する装置の開発

を行いました。サイクロンとは、円筒の下部に“じょうご”を付けたような装置で、管の接線方向に高速で物質を流し、装置の中で生じる遠心力と沈降の効果を利用して、筒上部から比重が小さい物質を、下部から比重が大きい物質を排出することができる装置です。

ところが、理論通りに設計を行っても、性能が出ない!? 原因は、ポンプにより“定説通りに送液”すると、灯油と水が激しく混じり合い、分離をよりいっそう困難にしてしまうことにありました。

研究には達成感と感動がつきもの!?

そこで、発想の転換を行い、通常のポンプの使い方は異なる方法で運転し、かつサイクロンの底部に工夫を施すと、上記の問題が一気に解決できたほか、なんと“除去した水、サビ等と同量の灯油を自動的にタンク内に供給することができる”ようになりました。秋の夜9時過ぎ、研究室で男3人が顔をつきあわせ、興奮を抑えながら予想以上の性能が出ることを確認し、終了後には一同達成感を感じていました。

サイクロンは海を渡る?

今回新たに開発した装置は、その後製品化を行うと共に特許を出願し、一部の地域ではタンク洗浄のサービスを開始しました。後日、数々の実験をこなす中で、今回開発した装置は灯油ホームタンクの洗浄のみならず、固体が混入する水源から水のみを供給する簡易給水設備にも応用できることが分かってきました。よって、将来技術移転を行い、発展途上国の衛生環境水準の向上にも貢献できる日も、そう遠くはないのではないのでしょうか。

*本技術は3月6日に科学技術振興機構JSTホールで開催された、秋田大学産学連携推進機構(018-889-2712)までお願いいたします。
*共同開発者/夙いとう 齋藤弥穂 伊藤崇喜